

東洋英和女学院大学大学院

2011 年度前期入学試験

春季選抜 問題

国際協力研究科 修士課程

小論文

東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科
2011年春季入学試験問題

小論文

次の4問のうちから1問を選んで、解答しなさい。

【問題1】

近年東アジア共同体の可能性に関する論議が様々なところで行われています。一般的にEU型の統合は難しいという意見が多いですが、東アジアではどのような共同体作りが可能だと思いか、自由に論じなさい。

【問題2】

国際社会において、EUはアクターとしての地位を確立しつつあります。EUは通常の国際機関とどのような点で異なる特徴があるのか、また、EUの今後の動向について思うところを自由に論じなさい。

【問題3】

戦後、GATT体制の元で一括関税引き下げ交渉が行われてきました。また、WTOに改組されて以降もドーハ・ラウンドで関税引き下げ一括交渉が行われていますが、先進国と途上国の対立が激しく、交渉は進捗していません。そうした中で、自由貿易協定や地域経済統合などが進んでいます。世界各国は二国間あるいは多国間で「自由貿易協定 (FTA)」や「経済提携協定 (EPA)」を結ぶ動きを強めています。最近、菅直人首相は、日本は「環太平洋経済提携協定 (PTT)」に参加する意向を示しています。こうした動きに対する賛否両論があります。特にPTTに焦点を絞って、自分の意見を含めて、賛否両論の根拠とその妥当性について説明なさい。

【問題4】

中国の公的外貨準備は約2・9兆ドルに達しています。日本の外貨準備も約1・1兆ドルあります。戦後のドル・金本位制の固定相場制度から変動相場制度に移るとき、もはや政府は外貨準備を持つ必要がなく、国内政策は為替相場維持の義務から開放されると主張されました。にもかかわらず依然として多くの国は外貨準備を保有しています。なぜ経済学者が主張するように変動相場制の下でも外貨準備を蓄積する動きが存在しているのか説明してください。また中国が約3兆ドルの外貨準備を保有することの意味と国際金融市場に与える影響について述べなさい。